

(別紙様式4)

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日	校 長 名		所 在 地	
新大阪歯科技工士 専門学校		昭和51年4月1日	作田 守		〒532-0002 大阪市淀川区東三国6丁目1-13 (電話) 06-6391-2211	
設 置 者 名		設立認可年月日	代 表 者 名		所 在 地	
学校法人 新歯会東 洋医療学園		平成25年4月1日	宮川 藤一郎		〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1丁目5-35 (電話)	
目 的	『職業人教育を通して社会に貢献する』をミッションとし、広い視野を持って現実を見つめ、豊かで柔軟な感性と人格を身につけ基本的知識、技術を発展的に捉え、常に新しい技術を追求し、未来を見つめる「心構え」即ち「主体性」を持った社会に必要とされる職業人育成を目指している。この「主体性」の修得こそ本校が目指す教育であり、滋慶学園グループ共通の3つの教育方針「実学教育」「人間教育」「国際教育」を柱に「主体」を持って、現代の社会で自己の未来を切り開いていく創造的能力と、勇気と信念を持った人間の育成、業界でリーダーとなれる人材の育成を教育の目標、目的としている。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	専門課程	歯科技工科	2年制(昼間部)	2220時間	平成6年文部科学大 臣告示第84号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		982時間	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1559時間	単位時間 (又は単位)
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		161人	14人	73人	87人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表(有) ■成績評価の基準・方法について 学科試験・実技試験及び出席状況により評価、進級判定会議、卒業判定会議にて判定する。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月20日～8月31日 ■冬 季：12月20日～1月10日 ■学 年 末：3月10日～4月10日			卒業・進級条件	進級及び卒業認定については、学業成績及び出席状況を評定の上、教務委員会の議を得て学校長が行う。	

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制（有） ■長期欠席者への指導等の対応 <p>自己疾病等による長期欠席者へは個人ワーク等の提供で個人指導、安心して復帰できる環境づくりを行っている。また、欠席が目立つ学生には、保護者との連絡を緊密にすると共に担任や臨床心理士によるカウンセリングを実施、メンタルサポートと共に補習補講により、授業の遅れを取り戻し、モチベーションが下がらない工夫をしている。</p>	課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 サークル/ボランティア ■サークル活動（有）
主な就職先	<ul style="list-style-type: none"> ■主な就職先、業界 歯科技工所/歯科診療所/歯科関連企業 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合77% (進学者の割合23%) 	主な資格・検定	歯科技工士（国家資格）
中途退学の現状	<ul style="list-style-type: none"> ■中途退学者9名 ■中退率 5.1% 平成26年 4月 1日在学者 179名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年 3月31日在学者 170名（平成27年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 学力・病気・家庭事情 ■中退防止のための取組 <p>独自の教育システムで教育を行っている。「自己変革教育システムPIBAP(ピバップ)」により、段階的な教育を実施。入学前から、目的意識・基礎学力・人間関係作りを意識した取り組みを行いそれでも足りない学生に対し、補習や放課後および長期期間中に具体的勉強法の教授を含め、繰り返して補習を行う。</p>		
ホームページ	URL: http://www.sdtc.ac.jp		

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

現状、日本の歯科医療に関わる歯科技工士の将来性及び位置づけとして、厚生労働省の調べでは人の確保、技術/知識の維持は現状のままでは厳しくなるであろうとされている中、本校として早くから歯科技工士業界(歯科技工士会)と共に将来の歯科技工業界を担う若手の人為確保を行い、現状業界のニーズに応えるべく授業カリキュラムに反映させ、後継者の育成を行う。本校教職員で歯科技工士免許取得者は、本人の住所地及び就業地の歯科技工士会に所属し、学校と業界のパイプ役とし活躍している。歯科技工士会には本校卒業生が多数所属し、近年では大阪府歯科技工士会会長を勤める者もいる。今後も、業界が求める技術、知識、人材を学校教育カリキュラムに反映させ運営を行い、学校が業界の人事部と位置付けであると意識して業界に貢献していく。

(開催日時)

第1回 平成26年6月28日 15:00~16:30

第2回 平成26年11月29日 10:00~12:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校では、専門分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する為に、実習の授業において現状歯科技工士として各専門分野で活躍されている先生方を実習非常勤講師としてお招きし実践的かつ専門的な学生指導を行っていただいている。本校と非常勤講師の意識疎通を図る為に、年2回講師会議が開催され、全体会にて本校の理念やミッションを理解して頂いたうえで、各専門科目で分科会が行われ学生指導や職業教育について検討され実習カリキュラムに反映させる。

科目名	科目概要	連携企業等
歯の解剖学	1. 歯について、その形態と構造を解剖学的見地から正しく理解する 2. 歯群として歯が口腔の総合的機能に関与する重要性を学ぶ 3. 歯の形態を素材に彫塑できる技術を習得する	株式会社 ルナデンタルクリエイト Tooth Craft コテラボ N.T デンタルラボラトリー 和田精密歯研株式会社
顎口腔機能学	顎口腔系器官の機能について理解させるとともに、咬合器の取り扱いについて習得する	和田精密歯研株式会社 大阪義歯センター 有限会社 大山デンタルラボラトリー
有床義歯技工学	有床義歯の理論と応用について、適正な知識と基礎的な技術を習得する	株式会社 六甲歯研 医療法人 藤原歯科医院 株式会社スタジオ SORTE 柿本デンタルラボラトリー 株式会社 ナンプ精工 テラムラデンタル
歯冠修復技工学	歯冠修復と架工義歯(橋義歯)の種類と構成等を理解するとともに、その論理と応用について適正な知識と基礎的な技術を習得する	フクダデンタルラボラトリー 有限会社 ネクサスデンタルラボラトリー ATELIER-NAKAGOSHI DENTAL LABORATORY 長尾デンタルファクトリー ひまわり屋
矯正歯科技工学	歯科矯正の基礎的概念を理解し、一般的に使用されている修復物及び、咬合誘導装置等の製作方法を習得する	クラタニデンタルラボラトリー KDL 加納歯科技工所 有限会社 シーディーシー・ティーシー

小児歯科技工学	小児歯科の基礎的概念を理解し、一般的に使用されている修復物及び、咬合誘導装置等の製作方法を習得する	クラタニデンタルラボラトリー KDL 加納歯科技工所 有限会社 シーディーシー・ティーシー
歯科技工実習	歯科技工学に関する全ての科目の知識と技術の基礎を総合的に習得する	フィデス・デンタル・ジャパン 株式会社 ディーエル・ワールド枚方 山口デンタルラボラトリー アート・ハンズ・クリエイト 有限会社 D.L.O.
歯科技工実習(選択)	各科目で学んだ基礎知識・技術を応用に活かし、種々の補綴物を製作し卒業後の業界において、すぐに役立つよう、知識・技術の向上を目的とする	株式会社 サポート 有限会社 千里デンタルラボラトリー デンタルビジョン D.L.O. 株式会社 ルナデンタルクリエイト Tooth Craft コテラボ 和田精密歯研株式会社

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校では、教職員の質の高揚のために学内研修、JESC 研修、各協議会が開催する外部研修会への積極的な参加をする。教職員の情緒を共有し連携意識を高める為に目標達成を評価し成果に対するインセンティブとして、教職員全員に実施する。各教職員が自立的に主体性を持ち活性化し現場力のある自立集団を目指す。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 26 年 6 月 28 日現在

名 前	所 属
時見 高志	(有)プラス ONE / 社) 大阪府歯科技工士会
中島 元	中島歯研
松浦 英二	大阪府立北摂つばさ高等学校
蒔元 真嗣	マキデンタルラボ
宮川 藤一郎	学校法人 新歯会東洋医療学園
作田 守	新大阪歯科技工士専門学校
岸本 秋朗	新大阪歯科技工士専門学校
満尾 宏史	新大阪歯科技工士専門学校
荻野 勝也	新大阪歯科技工士専門学校
中川 正史	新大阪歯科技工士専門学校

浦野 弘司

新大阪歯科技工士専門学校

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.sdtc.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.sdtc.ac.jp>

授業科目等の概要

医療専門課程 歯科技工科 平成 25 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			外国語	歯科技工士として必要な外国語を理解させ、その業務を遂行できるような適正な知識を学ぶ	1年 通年	30		○		
○			造形美術概論	歯科技工士として必要な美的感覚の素地を養うよう、造形、色彩等について学ぶ	1年 前期	15				○
○			関係法規	1. 歯科技工法並びに関連法規について理解させ、その業務を遂行できるような適正な知識を学ぶ 2. 積極的に法を守る態度を養う	2年 前期	15		○		
○			歯科技工学概論	1. 歯科技工の概念と歯科技工の論理を学ぶ 2. 歯科技工士に関する咀嚼系器官についての知識を学ぶ 3. 歯科技工士の業務の実施に必要な運動管理及び作業環境等についての知識を学ぶ	1年 前期	55		○		
○			歯科理工学	1. 歯科技工士に必要な歯科材料、機械器具についての基礎的な知識を理解させ、その取り扱いと応用を習得する 2. 歯科鑄造についての基礎的論理を理解し、その器具と材料の取り扱い及び鑄造技術の基本を習得する	1年 通年 2年 通年	236		○		○
○			歯の解剖学	1. 歯について、その形態と構造を解剖学的見地から正しく理解する 2. 歯群として歯が口腔の総合的機能に關与する重要性を学ぶ 3. 歯の形態を素材に彫塑できる技術を習得する	1年 通年 2年 通年	292		○		○
○			顎口腔機能学	顎口腔系器官の機能について理解させるとともに、咬合器の取り扱いについて習得する	2年 前期	62		○		○

○		有床義歯 技工学	有床義歯の理論と応用について、適正な知識と基礎的な技術を習得する	1年 通年 2年 通年	497		○		○
○		歯冠修復 技工学	歯冠修復と架工義歯(橋義歯)の種類と構成等を理解するとともに、その論理と応用について適正な知識と基礎的な技術を習得する	1年 通年 2年 通年	469		○		○
○		矯正歯科 技工学	歯科矯正の基礎的概念を理解し、一般的に使用されている修復物及び、咬合誘導装置等の製作方法を習得する	2年 通年	67		○		○
○		小児歯科 技工学	小児歯科の基礎的概念を理解し、一般的に使用されている修復物及び、咬合誘導装置等の製作方法を習得する	2年 通年	38		○		○
○		歯科技工実習	歯科技工学に関する全ての科目の知識と技術の基礎を総合的に習得する	1年 通年 2年 通年	546		○		○
○		歯科技工実習 (選択)	各科目で学んだ基礎知識・技術を応用に活かし、種々の補綴物を製作し卒業後の業界において、すぐに役立つよう、知識・技術の向上を目的とする	2年 後期	175				○
○		歯科技工 基礎知識	歯科技工学に関する全ての基礎的知識の習得	1年 前期	14		○		
○		コミュニケーション技法	相手の話を聞く姿勢や、その内容を理解する能力を高め、自分の意見を相手に理解できるように話す能力を高め、医療人として必要なコミュニケーション力の習得	1年 前期	12		○		
○		社会人マナー	社会人として必要な基本的マナーの習得	1年 通年 2年 通年	18		○		
合計			科目	2541 時間 (単位)					